

当院小児科に入院し気管支喘息急性増悪と診断されて高流量鼻カニューラ酸素療法、

あるいは、イソプロテレノール持続吸入療法を受けたお子さまと保護者さま

当科に入院し気管支喘息急性増悪と診断されて高流量鼻カニューラ酸素療法やイソプロテレノール持続

吸入療法を受けたお子さまを対象に、臨床研究を実施いたしますのでお知らせいたします。

1. 研究の意義と目的

小児気管支喘息の急性増悪（発作）の治療は、重症度に応じて、全身性ステロイド療法と1日数回の気管支拡張薬吸入、あるいは、気管支拡張薬の持続吸入（イソプロテレノール持続吸入）療法を併用することが一般的です。また、呼吸障害の程度に応じて、酸素吸入や人工呼吸管理、高流量鼻カニューラ酸素(HF)療法が選択されます。近年、当科では、呼吸困難に対する有効性が報告され、かつ、お子さまへの負担が少ないHF療法を、喘息急性増悪の呼吸障害に対して選択する機会が増えました。しかし、喘息急性増悪に対するHF療法の有効性は、未だ確立しておらず、その適応も定まっていません。

そこで、今回、当科で気管支喘息急性増悪に対してHF療法を受けたお子さまと、重症例に対するイソプロテレノール持続吸入療法を受けたお子さまの治療反応を比較し、HF療法の有効性を検討することといたしました。HF療法が有効であれば、お子さまにより負担の少ない治療方針を提案することが可能になると考えております。

2. 研究の方法

2019年4月1日から2023年9月30日の間に、当科に入院し、気管支喘息急性増悪の診断でHF療法、あるいは、イソプロテレノール持続吸入療法を受けたお子さまの診療録から、IDや生年月日、性別、病歴、身体所見、検査結果、治療薬、バイタルサイン、入院経過に関する情報を抽出し、匿名化して

統計処理を行います。

3. 個人情報の保護について

この研究を実施するにあたり、お子さまの診療録より得た情報から、住所や名前等が削られ、お子さま個人が特定できないように符合をつける「匿名化」を行い、残りの情報は鍵のかかるキャビネットに保管いたします。お子さまとこの符号とを結びつける対応表は、研究責任者が鍵のかかる別のキャビネットに保管することにより、お子さま個人の情報を管理します。これを連結可能匿名化といいます。こうすることにより、診療情報の解析を行う研究者には、誰の診療情報を解析しているのか分かりません。また、お子さま個人を特定する情報が公開されることはありません。調査対象となるお子さまお一人お一人へのご説明は致しませんが、お子さまの情報をこの研究に用いられたくないとお考えの保護者さまがいらっしゃいましたら、遠慮なく研究責任者へお申し出ください。今回の調査対象から省かせていただきます。お申し出いただいた場合でも、診療や病院サービスにおいてお子さまおよび保護者さまへの不利益はございません。この研究は2024年4月30日までを予定しており、研究期間終了後は得られた情報は破棄します。

この研究についてご質問などございましたら、下記までお問い合わせください。

連絡先：芳賀赤十字病院小児科 齋藤真理、菊池豊

電話：0285-82-2195 FAX：0285-84-3323



日本赤十字社マスコット
キャラクター ハートラちゃん